伊那市 新しいまちづくり 推進事業 官民共創の新しいまちづくり協議会の設立について

人口減少など社会の変化に対応するため、これまで環境、新産業、教育、福祉、産業など様々な分野において持続可能なまちづくりを進めてきました。

そのような中、県内高校の再編が計画され、まちの環境が大きく変化しようとしています。

伊那市では、伊那新校や上伊那技術新校の開校を見据えるこのタイミングをひとつの契機として、伊那市全体が、豊かな暮らしと学びに包まれるまちになることを目指して、官民共創による「新しいまちづくり」を推進していきます。

この新しいまちづくりを進めるに当たり、「官民共創新しいまちづくり協議会」を設立します。協議会では、まずは喫緊の課題を具体的なテーマとし検討を重ね、政策の実現に向けて市民の皆さんと一緒に考え、多くの皆さんが参画し、一体となって実践することを目指します。

1 官民共創の新しいまちづくり協議会

伊那市のまちづくりに対する目的・課題を共有し、伊那市への政策提言、新たなつながりの創出、連携による事業の実施に繋げる。

このプロセスにおいては、本協議会が積極的に、対話の場をつくること、まちづくりの活動をしている人や団体、まちづくりに対し思いのある人（主体）をつなぐこと、主体の発掘、この3点を軸に推進することで、市民の皆さんの意見が反映されたまちづくりを目指す。

(1) 運営委員会

役割 「ワーキンググループ」との連携を図る中で事業の進捗を管理するなど、本事業のプロセス（進め方や過程）をマネジメントする。

構成員 市長、副市長、三澤俊明氏、平賀研也氏、平賀裕子氏、田畑和輝氏、黒河内貴氏

(2) ワーキンググループ（WG）

役割 具体的なテーマについて、「対話・つながり・実現の場」から情報・課題を吸い上げ、ニーズを把握し、事業化に向けた検討を共通の視点を持ちながら行う。また、WG間での連携を図るためWG全体会を設置し、全体の方向性にずれが生じないように進める。

共通の視点

- ・ブランディング（地域ブランディングの視点）
- ・イノベーション（革新的な技術や発想によって新たな価値を生み出す視点）
- ・コミュニティ・インフラ（人が暮らしやすいインフラであることの視点）

構成員 各WGごと、実践者・専門性のある者5名程度、市職員 1人の計6名程度
※構成員の中からWGでのファシリテーターを選定
※メンバーは随時入替あり

WGテーマ

- ・伊那北駅周辺再生WG（伊那北駅周辺の再生・活性化に関わるまちづくり）
- ・伊那弥生ヶ丘高校将来活用WG（伊那弥生ヶ丘高校の将来活用の検討とその活用によるまちづくり）
- ・まちなかエリア高度化WG（伊那市駅～伊那北駅エリア、竜東地域を含む市街地エリアのまちづくり（公共交通の再構築、若者が滞留する街など）
- ・WGは必要に応じ随時追加

（裏面あり）

2 対話・つながり・実現の場

役割 まちづくりへ主体として参画ができる場として、若者や個人・団体などまちづくりに対し
想いのある人が集い、そこから新たなつながりや連携が創出され、より良い暮らしのイメ
ージを共有しながら具体的な事業の実施につなげる場。また、この過程においてまちづく
りへの新たな担い手が創出されることで、持続的・発展的なまちづくりにつながる。
なお、この場において創出された意見や事業は、協議会において検討される。

構成員 若者、大学生、高校生、中学生、地元、商店街、地元企業、教育関係、活動団体など幅広
い市民の参画を想定。

※構成員は固定されない。

3 今後のスケジュール

別紙のとおり